

令和3年電気学会全国大会特別講演（本部企画）について

講演者名 寿楽 浩太（じゅらく こうた）

職業 東京電機大学 工学部 人間科学系列 教授

演題 「科学技術の失敗にどう迫るか：文理をまたぐ学際的なアプローチ」



プロフィール

■ 専門分野

科学技術社会学（特に原子力利用に関する諸問題、科学技術の「失敗」に関して生じる諸問題が主な研究対象）

■ 著書・論文

Ahn, J., Carson, C., Jensen, M., Juraku, K., Nagasaki, S. and Tanaka, S (eds.) *Reflections on the Fukushima Daiichi Nuclear Accident: Toward Social-Scientific Literacy and Engineering Resilience*, Springer, 2015.

Sugawara, S. and Juraku, K. “Post-Fukushima Controversy on SPEEDI System: Contested Imaginary of Real-time Simulation Technology for Emergency Radiation Protection,” in S. Amir (ed.) *The Sociotechnical Constitution of Resilience: A New Perspective on Governing Risk and Disaster*, Palgrave Macmillan, 2018.

寿楽浩太『科学技術の失敗から学ぶということ：リスクとレジリエンスの時代に向けて』オーム社、2020

■ 社会活動

文部科学省科学技術・学術審議会「リスクコミュニケーションの推進方策に関する検討作業部会」委員（2013年～2014年）

経済産業省総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物ワーキンググループ委員（2013年～）

ホームページ：<https://ra-data.dendai.ac.jp/tduhp/KgApp?kyoinId=ymbggkybggy>